自己ＰＲ

私は、「No try! No change!　変わらなければ成長はない」ということをモットーにしています。平凡に生きていては今までの自分を成長させることは出来ません。何かを考え、それを実行し、日常から非日常の場に自分を持っていけば何かしらの成長を得られると考えてきました。

その1つが大学時代に行ったベトナム縦断旅行です。当時の私は日常の流れに身を任せて過ごしてきました。しかし、精神的に幼い自分を変えたい、今までの自分が経験したことのない景色を見てみたい、という思いから旅行を決意しました。結果、言葉が通じず頼る人がいない場に身を投じたことで、「頼るものは何もない」と自分を律していれば、人は強くなれるとわかりました。また自分の意思で行動していくことで、自己責任の意識を高めることも出来ました。\*-

今後はもっと変化を求め、今の非日常を日常に変化させ、また新たな非日常を求め変化していきたいと思っています。

改良版

私は、「No try! No change!」ということをモットーにしています。平凡に生きていては今までの自分を変えることは出来ません。何かを考え、それを実行し、日常から非日常の場に自分を持っていけば、何かしらの変化を得られると考えてきました。

その一つが大学時代に行ったベトナム縦断旅行です。当時の私は日常の流れに身を任せて過ごしてきました。しかし、今までの自分を変えたい、経験したことのない景色を見てみたい、という思いから旅行を決意しました。結果、異国の地で一人、頼る人がいない場に身を投じたことで、「頼るものは何もない」と自分を律し、自己責任の意識を高めることが出来ました。私はこの経験がきっかけで、新たな自分を見つけるきっかけとなり、自分の幅を広げることが出来ました。

今後はもっと変化を求め、挑戦し、今の非日常を日常に変化させ、また新たな非日常を求め変化していきたいと思っています。

自己ＰＲベトナムダメなとき用

私は学生時代、英語部に所属していました。英語部では、自大学での大会を主催した際に、その責任者を任されました。私はそれまで、このような責任ある仕事をしたことがありませんでしたが、「No try! No change!」という私のモットーに従い、この仕事を引き受けました。はじめは、先行きが全く見えなかったことや、自分と他の部員達のやる気に差があり、大会を成功させることが出来るのか不安でした。そこで、私は根拠を求め、例年通りの大会を開催するだけでなく、大会内容の改変や、作業の分担内容の明確化をする、といった具体案だすことで、やる気をもたせる努力をしました。結果として例年の大会よりも2倍以上の参加者を集めることが出来ました。私はこのことから挑戦することによって得る達成感を知りました。そして挑戦にはその根拠がなければ成功しないことを学びました。これからも私は具体的な根拠のもと、挑戦し続けていきたいと考えています。

学生時代力を入れたこと

私はいろいろな国の人とより自由に喋りたいという思いから、大学に入って英語部に入部しました。英語部では主に英語でのディスカッションを行っていました。ディスカッションをすることが初めてだったことや、周りに英語が得意という人が多かったため、まったくついていけず、他大学との合同でのディスカッションで一言も発することが出来なかったこともありました。そこで私はディスカッションの前にあらかじめその流れを予測し、あらゆる場面を想定し、必要と思われる英単語を考え、調べておくことで対策をたてました。それからは、徐々にですが他大学の方とも同等以上にディスカッションに参加することが出来るようになりました。この結果から、困難に直面しても、自分に足りないものを探し、対策することで解決できることを実感しました。

学生時代力を入れたことpart2

私は大学の間、英語部に所属していました。英語部では、自大学での大会を主催した際に、その責任者となって、他大学の方に大会参加の勧誘や、大会のスケジュールの調整などを行いました。はじめは先行きが全く見えず、またその責任の重さに戸惑い、心が折れかけました。しかし、先輩や友人の協力を得ることで、例年通りの大会を開催するだけでなく、大会内容の改良や、作業の分担内容の明確化をすることで、結果として例年の大会よりも2倍以上の参加者を集めることが出来ました。私はこのことから、困難に直面しても、周りの協力があれば問題を解決できること、困難が大きければ大きいほど、それを解決した時の達成感が大きいことを実感しました。

私は英語部に所属していました。英語部では自大学での大会を主催した際、その責任者となって英語部をまとめました。自大学が理系の大学ということで英語部の知名度が低く、この大会を機に知名度をあげ、他大学にも誇れるような部活にしたいと私は考えていました。そこで、普段の活動後に部員に残ってもらい話し合いの場を設け、大会内容の改良や作業の分担内容の明確化を行いました。その他にも個人として、他大学での大会では積極的につながりをつくることで勧誘を行いました。結果、例年通りの大会を開催するだけでなく、昨年の大会の約3倍の参加者を集めることが出来て、英語部の知名度をあげる1つのきっかけとなりました。

学業で力を入れたこと

ゼミにはまだ所属していません。力をいれた講義として、

土木構造物の設計：ダムなどの設計を行いました。まず地図から、ダムを造る場所を探すことからはじめ、場所に合わせてダムのサイズを決め、使う材料の重さや耐久力の計算式をエクセルに入力して、数値を地道に変えていくことで、できるだけ材料が少なく、かつ規定の耐久力を満たす設計をしました。この講義より、一見大まかな造りに見えるダムも、より無駄がなく安全であるための、地道な計算の基に成り立っているのだと実感しました。

長大志望動機

私は、直接人の目に触れることはないが、豊かな生活を送るうえで欠かせないものを創ることに興味があります。その上で建設コンサルタントは、社会や街、そして人の暮らしを創っていくもので、とてもやりがいを感じます。また、合同説明会で佐藤正様にご説明頂いた、若い人を集めて新しいものを作りたい、というチャレンジ精神は私のモットーである、「変化＝成長」に当てはまるように感じられたため、ぜひ貴社で仕事をしたいと思いました。

設問（24）の取り組みの目標・結果として成し遂げた成果・得られたもの等をご記入ください。 80 文字以内

自大学内で大会を開催した時に、その責任者となって大会の参加者数を増やすことを目標に行い、結果前年の3倍もの参加者を集めることが出来ました。

他大学の英語が専門の方が多かったため、まずその中で、たとえ英語が間違っていてもグループで一番喋ろうと目標をたてました。結果、年齢関係なしに、臆することなく自分の意見を発言できるようになりました。

設問（24）の成果や結果を成し遂げるために、あなたが主体となって取り組んだプロセスについてご記入ください。 400 文字以内

私が大会の参加者数を増やすために行ったことは、参加する層を増やすことです。英語部では主に3つのセクションに分かれて活動しています。前年までの大会では、このうちの一つのセクションからしか勧誘を行っていませんでしたが、今回から3つすべてのセクションから参加できるように大会を調整しました。先輩からは、今まで3つのセクションが関わりあうことがなかったのだから、上手くいかないのでは、と忠告されました。しかし私は変化なくして成長はないということをモットーにしていて、これは成長のチャンスだと思い、セクション同士の仲を深めるため、トランプを使った遊ぶ時間を間に設けました。こうすることで、互いの理解を深めさせ、今まで接することのなかったセクション同士でも円滑に大会の進行を進めることが出来ました。この結果、前年の3倍もの参加者が集まったにも関わらず、ほとんどの人に満足して、大会を終えることが出来ました。

研究室

テーマ

東日本大震災時の沿岸地域に住む被災者の行動分析

研究概要

東日本大震災では、高齢者や障害者などの逃げ遅れが深刻な問題となりました。実際に確認された犠牲者のうち、全体の54.8%が65歳以上となっています。このことより、高齢者や障害者など、一人での避難が困難な人々への防災対策を講じる必要があると考えました。そこで私は研究として、津波被害による避難行動の分析を行い、重要となる避難場所の配置についての評価をしていきたいと考えています。

自己ＰＲ

私は、学生時代、何事にも挑戦することを心がけてきました。そして私はそこから、行動力とチャレンジ精神を学びました。

そのうちの1つが、海外旅行です。

私は学生時代タイヤシンガポールといった、様々な東南アジア系の国々を訪れました。中でも大学二年の春に行った、ベトナム旅行では、行きと帰りの飛行機のチケットだけを購入し旅に出ました。「今まで見たことのない景色を見てみたい」、「自分をより成長させたい」、という思いからこの旅にチャレンジしました。

結果、異国の地で一人、頼る人がいない場に身を投じたことで、「頼るものは何もない」と自分を律し、自己責任の意識を高めることが出来ました。

また、日本では訪れられないような、お世辞にも衛生管理の行き届いているとはいえないお店にも、生きるためには挑戦していかなければなりませんでした。

行きの飛行機の中で「生きて帰れるのか」と少し不安でしたが、私はこの挑戦がきっかけで、現地の人と仲良くなれる自分、騙されそうになっても、それを回避する自分、といった新たな自分を発見するきっかけとなり、自分の幅を広げることが出来ました。そしてこの経験は「変化＝成長」という今の私のモットーのきっかけとなりました。現在も変化を求め挑戦し、非日常を日常に、そしてまた新たな非日常を求め変化していきたいと考えています。

以上のことから、私は行動力とチャレンジ精神がある人間です。この強みを社会に出ても生かし、とにかく行動することを大切にして、一日も早く活躍できる社会人になっていきます。

ＪＲ志望動機

私の中では線路のメンテナンスとはＪＲ東日本で最も重要な仕事だと考えています。もし不備があった時、代わりの列車があっても、代わりの線路はありません。また、この仕事は直接お客様の安全へと関わってくる仕事でもあります。そのため保線という仕事は貴社の中で、最も責任感が必要な仕事だと考えています。私は学生時代、英語部に所属していました。そこで、自大学の大会を開催した際には、その責任者として、大会の運営から参加者の募集まであらゆる業務を行いました。この仕事をするには、全体のまとめ役といった大きな仕事だけでなく駅から学校までの案内係の配置等、細かい仕事まで目を届かせていかなければなりませんでした。こういった細かい仕事も欠かさず行う力というのは保線という責感任の必要な仕事でこそ生かせると考え、線路のメンテナンスのフィールドを志望しました。

食品研究室

空間情報研究室に所属しています。研究内容はまだ決定していませんが、ＧＩＳを利用した食に関わる研究をしたいと考えています。ＧＩＳは人口移動や温度変化など、土地のあらゆる情報からその地域の特徴を知ることが出来ます。私はこれを応用し、子供や大人、お年寄りの人口の割合や気候の変化から、地域の食の特徴を導き出し、その地域ごとに販売に有利な食の提供方法を探し出し、既存の食品企業の展開している販売方法と比較することで、よりその精度をあげ、実際に企業が活用してくれるような食の提供方法を考えたいと思っています。

伝統と創意工夫→私は今までいくつかの国々を渡り歩く中で日本人の道義的感覚を再認識させられました。であることが忘れられませんでしただからこそ日本人であることを大事にしている貴社に魅力を感じました。

日本とは

私の親は人一倍厳しい親でした。

私は色々な国を訪れ、日本のご飯のおいしさを再認識しました。

それは、消費者に正直である日本の食文化だからこそだと私は考えます。特に貴社は「道義を重んずること」を社訓の1つとして掲げており、私はその考えに共感を抱き、志望いたしました。

私は学生時代にいくつもの国々を訪れる中で、日本のご飯のおいしさを再認識しました。この理由として、消費者に正直である日本の食文化があるからこそだと私は考えます。特に貴社は「道義を重んずること」を社訓の1つとして掲げており、「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という考えに大きな共感を抱きました。

また、私は現在空間情報研究室に所属し、様々な空間情報から食品の販売経路の提案をしていきたいと考えています。ここで学んだことを貴社の社訓の下、活かしていきたいと考え、貴社を志望しました。

空間情報研究室、GISを利用した食に関わる研究

子供や大人、お年寄りの人口の割合や気候の変化から、地域の食の特徴を導き出し、その地域ごとに販売に有利な食の提供方法を探したいと考えています。

私は学生時代にタイヤシンガポールといった、様々な東南アジア系の国々を訪れました。中でも大学二年の春には、行きと帰りの飛行機のチケットだけを購入し、ベトナム縦断に挑戦しました。「今まで見たことのない景色を見てみたい」、「自分をより成長させたい」、という思いからこの旅に挑戦しました。

結果として異国の地で一人、頼る人がいない場に身を投じたことで、「頼るものは何もない」と自分を律し、自己責任の意識を高めることが出来ました。

また、日本では訪れられないような、お世辞にも衛生管理の行き届いているとはいえないお店にも、生きるためには挑戦していかなければなりませんでした。

行きの飛行機の中で「生きて帰れるのか」と少し不安でしたが、私はこの挑戦がきっかけで、現地の人と仲良くなれる自分、騙されそうになっても、それを回避する自分、といった新たな自分を発見するきっかけとなり、自分の幅を広げることが出来ました。そしてこの経験は「変化＝成長」という今の私のモットーのきっかけとなりました。現在もこのモットーの下、変化を求め挑戦し、非日常を日常に、そしてまた新たな非日常を求め変化していきたいと考えるようになりました。

自大学内で大会を開催した際に、その責任者となって大会の参加者数を増やすことを目標にアイデアを提案し、結果として参加者数を前年の約3倍にしました。

私が大会の参加者数を増やすために行ったことは、参加する層を増やすことです。英語部では主に3つのセクションに分かれて活動しています。前年までの大会では、このうちの一つのセクションからしか勧誘を行っていませんでした。しかしこの大会では3つすべてのセクションから参加できるように大会を調整しました。先輩からは、「今まで3つのセクションが関わりあうことがなかったのだから、上手くいかないのでは？」と忠告されました。しかし私は変化なくして成長はないということをモットーにしており、これは成長のチャンスだと考えました。そして私は、セクション同士の仲を深めるため、トランプを使った遊ぶ時間を間に設けました。このことにより互いの理解を深め、今まで接することのなかったセクション同士でも円滑に大会の進行を進めることが出来ました。このアイデアを提案した結果、先輩にも納得してもらい、また前年の3倍もの参加者が集まったにも関わらず、ほとんどの人に満足して、大会を終えることも出来ました。